

第11回市工芸品創作技術コンクール

～伝統の技術で新たな作品を生み出す～

2月3日、川辺二日市の川辺仏壇フェスタ会場内で、表彰式と作品の展示が行われました。大賞には、川原茂人さんが出品した“うるし筆箱入れ”が選ばれました。蒔絵の技術を駆使し、細部にこだわった工夫と商品性が高いことを評価されての受賞となりました。なお、作品一覧を市のホームページで紹介しています。



大賞	優秀賞	川辺仏壇協同組合理事長賞
うるし筆箱入れ	四季の漆器	おもてなし
川原 茂人さん (川原美術工芸)	神菌 秋男さん (神菌仏壇)	佐野 公春さん (木原製作所)
今までの創作活動は楽しく、漆芸は奥が深く、やりがいがありました。これからも自由な作品を模索しながら進んでいきたいです	仏壇の技術と草花の融合を考え、実用品として使えるものを作成しました。	前回の出品作品を検討して、お客さまに手に取ってもらえる商品を考えて作りしました。

伝 統的工芸品産業功労者表彰

～九州経済産業局長表彰～

昨年12月18日、川辺仏壇伝統工芸士の芝原重志さんが、九州経済産業局より伝統的工芸品産業功労者として表彰されました。今回の表彰は、技術者養成への貢献や、特殊な寺院修理を手掛けるなどの高い技法が評価をされたものです。50年以上仏壇の宮殿(くうでん)製作に従事している芝原さんは、「若い人に関心を向けてもらえるよう斬新なデザインを生み出していきたい」と今後の抱負を話しました。



▲表彰状を手にする芝原重志さん(中央)と妻のかずよさん(右)。

南 九州市は県内一の葉たばこ産地

～葉たばこの播種(はしゅ)式～

1月10日は穎娃町別府の葉たばこ育苗センター、23日は加世田万世の葉たばこ育苗センターで、葉たばこの種まきが行われました。平成29年産葉たばこは、収量・販売額ともに前年度を大きく上回り、生産目標を達成しました。参加者は、今年も生産目標達成できるよう、豊作を祈願しながら種をまきました。本市では、生産者27戸で平成30年産葉たばこを約72ha栽培します。



▲穎娃・知覧地域の生産者による1月10日の種まきの様子。川辺地域の生産者は1月23日に種をまきました。

男

～南九州市市制施行10周年記念～

女共同参画シンポジウム

男女共同参画シンポジウムが1月28日に知覧文化会館で開かれ約400人が集まりました。基調講演では古市憲寿さんが、「今の日本女性は頑張りすぎ、ほどほどが大事」との持論を展開。時には交遊ある芸能人の話題も交え笑いを誘うなど、会場は終始笑顔に包まれました。このほかにも、特別養護老人ホーム涼松の岡村も子施設長による“そよ風事業”の事例発表や、パネルディスカッションが行われました。



▲講演するテレビでおなじみの社会学者 古市憲寿さん（父親が川辺町出身）。このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協会からの拠出金を受けて実施されました。

春

～川辺・ちらん二日市～

はそこまで来ています

2月3日、4日、開運夢通り商店街（川辺町商店街）で川辺二日市が、知覧まち商店街でちらんまち二日市が開催されました。二日目は、雪の舞う寒い日となりましたが、230余年も続く川辺二日市では約400の露店や陶器や木市が立ち並び、今では恒例となった猿回しやバナナのたたき売り、グルメフェスタや骨董市会場など多くの来場者で賑わいを見せました。



▲福男福女による餅まきも行われ、福をあやかりと夢中で手を伸ばす皆さん。

顔

～平成29年度ふるさとづくり大賞～

娃おこそ会 総務大臣賞受賞

2月3日、地域をより良くしようと頑張っている団体や個人を表彰する“ふるさとづくり大賞表彰式”が東京都千代田区で開催され、NPO法人顔娃おこそ会が総務大臣賞を受賞しました。地域住民と行政が連携した観光開発、空き家再生活用、UIターン者の受入活用など、法人の自主的な活動の実績が認められ、また、今後さらなる発展が期待できることから、今回の受賞となりました。



▲表彰式で行われたパネルディスカッション。顔娃おこそ会の加藤潤さん（右から2番目）も登壇して事例発表や討論を行い、会場を沸かせました。

共

～人権擁護委員 汐満美奈子さん～

に暮らせる社会を目指し

川辺町の汐満美奈子さんが、法務大臣から人権擁護委員として委嘱され、「これまで培った経験や知識を活かし、高齢者や女性・子どもなどの社会的弱者に目を向け、微力ながら頑張っていければ」と抱負を話しました。本市では、現在9人の人権擁護委員が地域からの人権相談や問題解決の手助けのほか、人権侵害被害者の救済、人権啓発活動を行っています。



▲市長から委嘱状を伝達された汐満美奈子さん（左）。